

# be evening

## 高級な一滴、大きなうねりに

### 昭和史 再訪

4年(1959年)8月

#### ミネラルウォーター発売

ボトル入りの天然水を買って飲む。日本でもありふれた光景になった。ミネラルウォーターの国内生産量は昨年、過去最高の約2508万リットルを記録した。東日本大震災の被災地へ送ったり、原発事故による放射能への懸念で買いためたため、防災用の購入が増えたり



1969年8月2日朝日新聞 新刊地域版(東京)



#### 家庭に宅配水、高まる個人消費

ミネラルウォーターは農林水産省が1990年、品質基準ガイドラインで4種に定めた。●特定の水源の地下水を濾過、沈殿、加熱殺菌した「ナチュラルウォーター」、●①のうち、鉱化された地下水の「ナチュラルミネラルウォーター」、●②のミネラル分を調整、殺菌処理した「ミネラルウォーター」、●③、

④以外の飲料水「ボトルドウォーター」10年前から企業や家庭にウォーターサーバーを置く「宅配水」が広がった。日本宅配水協会によると、現在業者は3千社弱、半数以上がボトルドウォーターを扱う。昨年の製造量は前年比47%増の約98万リットル。「ニーズは高まっており今後も個人消費が伸びる」とみる。

ルトコンペヤのガラス瓶に、加熱殺菌されて蒸気をたてた水が注がれていく。「昔ながらの瓶はペットボトルとは違う味わいがありますよ」と伊東延和常務(70)。

1959(昭和4)年8月に日本で初めて発売された無炭酸の「富士ミネラルウォーター」の下部工場だ。

炭酸入りのミネラルウォーターは先んじて明治時代に登場した。外国人居留地があった兵庫県の「三ツ矢平野水」や「ウイルクソン炭酸水」など。外国からの買客向けの量産された製造だった。

昭和の初め、政治家の後藤新平が下部温泉へ湯治に訪れた。わき水を瓶に詰めて帰る人を見て「まさか飲んでみるんじゃないだろうね」と現・富士急行の初代社長、堀内良平に聞いた。フランスの「エビアン」の話をした。これにヒントを得た堀内が合名会社を作り、「日本エビアン」(別名「下部天然炭酸水」)として売出したのが「富士ミネラルウォーター」の前身だ。

帝国ホテルなどの有名ホテルやレストランで売られる一方、「食卓用保健飲料炭酸水」として、「水を飲む会」を作った宅配も始めた。「皇室関係をはじめ、与謝野晶子さんや山田五十鈴さんも会員でした」と伊東さん、といっても

まだまだ一部の人の「高級ミネラルウォーター」でしかなかった。戦後、高度成長期に入るとトリスパーやウイスキーの水割りが流行。昭和40年代にはニッカ、サントリーなどが水割りの水を発売し、「業務用ミネラルウォーター」が普及していき、家庭用を広めたのは、83年にハウス食品がカレライスのチェイサーとして売り出した「ニッ甲のおいしい水」だ。翌年には全国的な沸水も重なり「名水」ブームが起き、数年で2000ブランド以上に上った。

88年に欧州の無炭酸のミネラルウォーターの輸入が正式に認められ、90年には家庭用の消費量が業務用を超えた。「所得が増え、海外旅行で水を買う機会も多くなったせい」が、90年以降あきらかに消費が増え始めた。「日本ミネラルウォーター協会」の理事兼技術委員長(88)。

94年には、吾々の間で「エビアンホルター」を音から下けて歩くのが流行。99年の「2000年問題」で飲み水確保が呼びかけられると、さらに伸びた。国内生産量は90年の15万リットルから99年には98万リットルに、昨年は99年の2・7倍に上る。かつて大人の「愛飲水」だったミネラルウォーターは、原発事故で「赤ちゃんから飲んで育つ水」となった。

だが、日本には処理法などの規制はあるが、水源や採水地の確保保護の法的義務はない。日本一の生産地の山梨県でも「この業者がここから採った水をどう販売しているかは、把握していない」(県大気水質保全課)という。

この夏の中元贈り物でもミネラルウォーターは好評で、早くも歳暮の水販売を計画するデパートもあるとか。「買う水」の安全性は、さらに問われる。(産経新聞)

◆今回は「昭和15年 皇紀2600年」の予定だ。